

令和5年度 主催研修事業報告書



大津市立 葛川少年自然の家

主催研修事業報告書目次

	はじめに	P2
小中学校対象事業	ふるさと体験学習、森林環境学習「やまのこ」事業	P3～4
小中学生対象事業	葛川自然学校	P5～6
	ちっちゃい秋探検隊	P7～8
	北風わんぱくキャンプ	P9
家族対象事業	日帰りファミリーサマーキャンプ	P10
	ファミリー防災キャンプ	P11
	ファミリーウィンターキャンプ	P12
市民対象事業	わくわくホリデー（草木染め）	P13
	わくわくホリデー（クラフト）	P14
	わくわくホリデー（杉アロマ）	P15
指導者対象事業	自然の家ボランティア研修会	P16
	カウンセラー研修会	P17
	教職員研修	P18
その他の事業	職員研修	P19

はじめに

葛川の豊かな自然は、訪れる人々にいつも貴重な体験を与えてくれます。「日常では味わえない自然とのふれあい」「人と関わることの心地よさ」などの経験は、自然の家を訪れた皆さんにとっていつまでも心に残る思い出となっていることでしょう。今年度開所36年目を迎え、ふるさと体験学習、森林環境学習「やまのこ」事業をはじめ、実施できた主催事業は全て充実した内容で終了することができましたこと、感慨深く思っています。世の中では、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、徐々にもとの生活様式が社会全体に浸透していった1年でした。

今年度は、森林環境学習「やまのこ」事業においては、全て宿泊実施、ふるさと体験学習においては、一部大規模校を除いては宿泊実施となりました。しかし、限られた時間の中でも子どもたちの活動が充実するよう、様々な工夫をしながら各事業に取り組んできました。活動を行う前の打合せなどを十分行うことによって、当日はできるだけ長く活動に没頭できる時間を確保し、参加者が可能な限り自然体験活動を満喫していただけるよう心がけてきました。

主催事業の「ファミリー防災キャンプ」では、葛川の豊かな自然の中、家族の絆をより深めていただくことができたのではないかと感じております。「葛川自然学校」「ちっちゃい秋探検隊」「北風わんぱくキャンプ」は、たくさんの方の参加者に来ていただき、カウンセラーの活躍もあり、十分堪能してもらうことができました。残念ながら、「ファミリーウィンターキャンプ」は、雪不足のためやむなく中止となりました。ふるさと体験学習、森林環境学習「やまのこ」事業では、久しぶりの宿泊体験を味わっていただきました。2日間のゆっくりとした時間の中、各学校のねらいや願いにそえるよう各所員が学校のサポートをしてきた甲斐あって、事後の感想では、満足していただいた様子を聞かせていただきました。

5月のふるさと体験学習中に発生した事故については、マニュアルを作成するなど安全対策に努めてまいりました。今後も、参加者の安心安全を守りつつ、変わらず自然体験活動を提供し続けることが、本所の大きな使命であると考えております。また、食事提供業務や施設の充実も必要です。それぞれの職員が、それぞれの業務に責任をもって取り組みつつ、課題の共有、解決方法の模索を繰り返し、協働的かつ計画的に取り組んでいくことがなにより大切だと考えております。

自然の家での事業を進めるにあたりまして、地域関係者やボランティアの皆様、カウンセラーの皆さんからご支援を賜ったことに深く感謝を申し上げます。

所員一同が今年度の事業の一つ一つを振り返りながら、令和5年度の実施報告書をまとめました。この報告書をご一読いただき、本所の取り組みにご理解賜りますと共に、今後も子どもたちの自然体験学習の充実のために広く活用していただきますとともに、本所で行う自然体験活動の様々な事業に対し、ご協力いただきますことをお願いしまして、はじめの挨拶とさせていただきます。

令和6年(2024年)2月

大津市立葛川少年自然の家 所長 石戸 勇雄

ふるさと体験学習、森林環境学習「やまのこ」事業

趣旨

<ふるさと体験学習>

自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、葛川少年自然の家における集団宿泊体験を通して、生徒の仲間づくりと集団生活のあり方を学ばせ、心豊かでたくましい人間性の育成をめざす。また、体験活動を通して、大津のめざすこども像である、「新しい価値と可能性を追求する大津の教育 ～多様性を尊重し自立する人～」の育成を図る。

<森林環境学習「やまのこ」>

滋賀県の補助をうけて実施する森林環境学習「やまのこ」事業は、学校教育の一環として、森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに、人と豊かに関わる力をはぐくむことをねらいとする。

また、この体験活動を通して、大津のめざすこども像である、「夢と志をもち、変容する時代の中で、心豊かにたくましく生きるこども」の育成を図る。自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、葛川少年自然の家における集団宿泊体験を通して、生徒の仲間づくりと集団生活のあり方を学ばせ、心豊かでたくましい人間性の育成をめざす。

実施日

令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日) 小学4年生・中学1年生 (一部日帰り)

対象および参加者数

大津市内小学校 4年生 39校 3,178名、大津市立中学校 1年生 18校 2,871名

実施状況

1学期	小学校	5校 (419名)	中学校	16校 (2,562名)
2学期	小学校	31校 (2,548名)	中学校	2校 (309名)
3学期	小学校	3校 (211名)		



成果と課題

<ふるさと体験学習>

ふるさと体験学習では、学校独自のねらいに応じて実施されている。今年度も「仲間づくり」「資源の活用体験」「防災学習」など、はっきりとねらいを定めてのぞんだ学校が多かった。その中で1学期実施の中学校は入学後間もない時期の学習になるため、「仲間づくり」をねらいとする学校が多数見られた。学年レクリエーションやウォークラリーはもとより野外炊事や防災プログラムを実施する学校があった。

特に今年度は「防災プログラム」の「土のう積み体験」や「ロープワーク」を数校が実施した。限られた時間内で「話し合う」「考える」「行動する」「工夫する」等の過程を各クラスが意見を出し合い、協力して実施することが、より深い学習へとつながった。また、災害時でも役立つ「ロープワーク」では身の回りにあるもので、自分や周りの人の命を守ることができるという体験を通して、災害時に何ができるかを考える機会を持つということは、防災を考えるにあたり必要な機会であり、また興味・関心を広げる一つの機会になったと感じた。また担当教師が事前にシュミレーションを行い、生徒に教えている場面がよかった。さらに、テント泊体験では実際に自分たちでテントを立てるところや寝ることを体験し、学校での防災教育をより深められたように感じた。

命の学習では、生きた魚を自分の手でつかみ、それを竹串で刺し、さっきまで生きていた魚を焼いて食べるという、そのことすべてが生徒の「心」の中に強く響いているようだった。この活動を通して、「命の大切さ」や「尊さ」に触れ、自分も他人も周りの人も大切にできる人になってほしいと思う。また、何かを感じて大切なことに気づくきっかけになったらいいと思う。

〈森林環境学習「やまのこ」〉

今年度より宿泊が再開されるようになり、日帰り時よりも多くの活動ができるようになった。また、厨房も再開し、食事も提供できるようになったため、学校との打ち合わせをより丁寧に行うようにした。特に食事や健康面で配慮が必要な子どもについての対応策を学校と共有し、事故が起こらないように努めた。

活動プログラムは各校の単元指導計画に基づいて、学習内容のねらいと自然の家での活動計画を合わせていきながら、子どもたちにとってよりよい活動となるように計画を立てた。特に、自然の家の周辺には「山からの湧き水」「動物がいた様子」「木が植わっている様子」など森林環境学習を進めるためのヒントとなるポイントがたくさんある。自分たちの学校周辺には見られない場所を紹介していき、学校側に子どもたちに見てもらいたいことや気づいてほしいことを掴んでもらえるように進めていった。

退所後、各学校が提出している実施報告書によると、子ども達は森林環境学習に意欲的に取り組んでいるが、あまり理解はできていないと感じている学校が多かった。理解度は評価テストなどによって図るわけではないが、「サーチ・ザ・ツリーで木の特徴を知ることができてうれしかったです。」「森林の木って多いからいいわけじゃないんだな」などといった感想や活動中のつぶやきは森林環境学習に対する理解をしている表れであるということ各校に知らせていくことが必要であると感じた。

今年度、小規模校2校が同時に入所する新たな取り組みが行われた。2校合同の班編成を作り、同じプログラムで活動を進めた。2日間過ごすことで子ども達同士の仲が深まり、退所後も子ども達の声からオンラインでの交流が続けられた。この取り組みはかかわりのある人が少ない小規模校の子ども達にとって大変有意義な取り組みであった。すべての学校の取り組みとしては難しいが、小規模校へ積極的に取り組んでもらえるように発信していきたい。

GIGA スクール構想によって子ども達は一人一台の端末があり、わからないことはすぐに調べ、まとめたことやわかったことを発信することができる。調べたことやわかったことをより深めるためには、実物を見たり体験したりする活動が必要であり、葛川少年自然の家に来て、自然に触れて「うわ〜、大きいなあ」「へえ〜、こうなってるんだ」などといった感動体験が実感の伴った理解へとつながっていく。来年度も子ども達に感動体験ができる充実したプログラムであるようにしていきたい。



(中学校) ロープワーク



(中学校) 土のう積み体験



(中学校) テント泊準備



(小学校) 命の学習



(小学校) 草木染



(小学校) 所内散策

葛川自然学校

趣旨

親子で葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、命の大切さ、自然の美しさを感じ、ふるさと大津を愛する気持ち、親子の絆を育む。

実施日

令和5年8月3日(木)～4日(金)

募集対象

大津市内在住の小学4年生～中学3年生

応募状況および参加者数

応募者数 123名 参加者数 24名

プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8月3日			バス乗車 受付		仲間づくり 開校式		昼食		命の学習 川遊び		オリエンテーション	夕食		キャンプファイヤ	入浴	就寝	
8月4日	起床	朝の集い	朝食		野外炊事		昼食	ふりかえり	バス乗車 閉校式	解散							

参加者・保護者の声

(参加者アンケートより)

- 参加する前は、心配という気持ちが強かったけど、みんな同じような気持ちだったんだなあと知れた。たくさんの自然があって、仲間意識が感じられる楽しいイベントだった。また参加したい。
- 自然ってやっぱりいいなと思った。風も気持ちよくていい感じだった。木を燃やすことがないから貴重な経験になった。火がとてもきれいだった。
- 初めて会う人とも仲良くなれた。小4や中1で来た時には体験できないことがいくつもあり、川遊びでは川のきれいさに感動しました。あまごの命の学習では一度体験しているけど、改めて命の大切さが学べていい学習になりました。

(保護者アンケートより)

- コロナ禍でなかなか宿泊体験ができず、今回初めての体験でした。帰宅後「楽しかった！また行きたい！」と予想以上の充実した時間を過ごせたようでうれしく思います。
- 各班にカウンセラーがいてもらえたことが心強く、かかわりがうれしかったようです。知らない子と知らない場所での活動が貴重な時間となりました。

成果と課題

宿泊を再開して初めて行われる事業であるため、100名を超える応募者があり、この事業に対する関心の高さがうかがえた。特にコロナ禍で宿泊体験ができなかった5・6年生の応募者は多かった。

キャンセルが多く、当日は24名の参加と少ない人数での主催事業であったが、人数が少なくなったことで参加者への目が行き届きやすくなり、参加者への安全確保が十分できた。また、初めての班付けをする高校生カウンセラーもおり少人数になったことは安心であったと思う。今回の経験が次の主催事業への自信につながったように感じた。

参加者たちは集合場所で出会ったときは、知らない者同士であるため口数が少なく、緊張している様子が見られたが、カウンセラーが行うゲームや班での交流を通して笑顔が見られるようになってきた。人数も少なかったが、他の班との交流が活発になっていったため、盛り上がりが増していくのが感じられた。

2日間を通して盛りだくさんの活動内容にしなかったため、時間に余裕が生まれ、ゆったりとした活動ができた。カウンセラー達も時間を気にしながら活動を進めることがなく、余った時間を生かして参加者と遊ぶ時間が十分とれた。この時間が参加者にとってカウンセラーとの距離をさらに縮める時間になり、よい交流であったと感じている。単にプログラムをこなすのではなく、参加者とカウンセラーが楽しみ、安全に活動することが最も大切なことである。そのためには、学年に応じた活動プログラムを作ることが重要になってくる。

よりよいプログラムを作っていくためにはカウンセラーとの打ち合わせを密にしていかなければならないと思った。余裕を持ったプログラムであっても人や物の配置など、活動を見通すうえで細かな動きを考えていくことが大切である。また、時間が余り過ぎてしまうと、本事業のねらいがうすれてしまうことも考えておく必要がある。

2日間を通して大きな事故やけががなく無事に終えられたことが一番の喜びである。



ちっちゃい秋探検隊

趣旨

秋の自然に親しみながら、自然の美しさに感動する心を養うとともに、仲間との交流を深めることを目的とする。

実施日

令和5年11月3日(金)～4日(土)

募集対象

大津市内在住・在学小学1年生～3年生

応募状況および参加者数

応募者数 37名 参加者数 26名

プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11月3日			バス乗車 受付		仲間づくり 開校式		昼食	焼きいも作り 葛川探検			オリエンテーション	夕食		キャンプファイヤ	入浴	就寝	
11月4日	起床	朝の集い	朝食		野外炊事		昼食	ふりかえり	バス乗車 閉校式	解散							

参加者・保護者の声

〈参加者のアンケートより〉

- ・最初はドキドキしていたけど、友だちができて安心し、うれしかったよ。キャンプファイヤはちょっとつかれたけど、楽しかったよ。また行きたいです。
- ・やきいも作りで炭の上にいもをのせて、その上に落ち葉をのせたらけむりがいっぱいできてびっくりしたよ。太陽にあたっているけむりが太陽にすいこまれるように見えました。

〈保護者のアンケートより〉

- ・参加前は本人も抵抗があり、親も少しドキドキしましたが、貴重なブレイクスルー体験になりました。
- ・堅田駅ではとても緊張していましたが、カウンセラーの方々が声をかけてくださっていたので安心しておくりだせました。
- ・帰宅すると、進んで風呂そうじをし、習い事の練習をしたので驚きました。「自分から」という気持ちが芽生えたのかなと感じました。

成果と課題

37人（3年生13人、2年生15人、1年生9人）の応募があったが、キャンセルもあったため当日は26名の参加であった。低学年だけで宿泊体験をさせることを考えれば、30人までの参加者数が妥当であった。当日は2日とも天気に恵まれ、過ごしやすいうちで活動することができた。

参加できるカウンセラーが少なく、班編成など安全に活動を進めていくためにはカウンセラーの数が必要となる。しかし、現在中心となって活躍しているのが大学3回生のため、来年以降の事業運営の持ち方が課題となってくる。

当日は連休初日ということもあり、堅田駅前には多くの観光客がいて出発前にトイレに行こうとしたら大行列ができていて、使えない状態であった。バスの運転手さんの機転もあり、近くのコンビニに寄ってもらえた。また、支所前の駐車場は朝から登山客で満車状態であった。早くに連絡を受けられたので、降り場の変更を出発前に伝えることができた。11月の連休は登山客が多いことを考えて集合場所などの計画を立てる必要がある。

プログラムはゆったりとした内容であったため、自由時間が多く持てた。他の班の子ども達やカウンセラーとの交流の時間となるので、詰め込んだプログラムよりもこのようなゆとり時間が多く持てることはよかった。しかし、時間がやや多かったためか、カウンセラーが自由時間の使い方に困っていたため、カウンセラー研修会では自由時間の過ごし方についても考えさせておくことが必要であった。

夜間に事故や急病等のトラブルはなかったが、男女の保健担当の大人がいたことは心強かった。2日目の野外炊事後に体調を崩す子や自由時間でのがががあり、所員での対応が難しい時には適切に対応してもらえた。今後の子どもへのみの参加の主催事業では、このような体制を取ることが望ましいと感じた。

2日目の野外炊事のために地域ボランティアさん5名に来ていただいた。各班に入ってもらうことで、子ども達と一緒に活動が行えたことがたいへんよかった。子ども達にとっても様々な人たちと関わることができ、よい学びであった。来年度も地域ボランティアの方々の協力を得ながら活動を進めるようにしていきたい。



北風わんぱくキャンプ

主旨

冬期の自然の中でのあそびを通して感性や創造力の豊かな子どもを育てるとともに、異年齢集団の交流を通して、協調性、自発性を養う。

実施日

令和6年2月10日（土）～11日（日）

募集対象

大津市内在住・在学小学4年生～中学生

応募状況および参加者数

応募者数 49名 参加者数 25名



プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
2月10日			バス乗車 受付		仲間づくり 開校式		昼食		北風と遊ぼう		オリエンテーション	夕食		キャンファイヤ	入浴	就寝	
2月11日	起床	朝の集い	朝食		スノーバトル		昼食	ふりかえり	閉校式	バス乗車	解散						

参加者と保護者の声

〈参加者のアンケートより〉

- ・1日目の雪遊びはできなかったけど、スタンプラリーや宝探しができて楽しかったです。カウンセラーが用意したゲームがとてもおもしろかったです。
- ・一日目の最初は友だちができるか不安でしたが、班の人全員に加え、他の班長や班員の子どもたちとも話せるようになりました。一生に残る思い出ができました。ありがとうございました。

〈保護者のアンケートより〉

- ・学校の友だち以外での交流ができてとてもよかったと感じています。大人になるための一歩になりよかったです。

成果と課題

49名の応募があったが、キャンセルにより25名の参加となった。今回、カウンセラーの班付けが5班分となったため、一班につく人数を5～6名に設定した。一班に5～6名の設定は安全面や活動面から考えて妥当であった。また、雪がまったくなかったため、雪遊びの活動を館内ラリーやコーナー遊びに切り替えたが、外での活動やプログラムを入れても良かったと思う。来年度にむけて検討していきたい。2日間で大きな事故やケガもなかったが、前日夜に看護師の方の都合が悪くなりバスに乗車するメンバーを急遽所員に切り替えた。今回は養護教諭2名を配置していたため、大きな混乱はなかったが当日までにそのようなことが起こることも想定しておきたい。来年度の活動プログラムの内容や進行などは所員が考え、カウンセラーは班付けのみに徹することとなるため、早い段階で提案できると良い。

日帰りファミリーサマーキャンプ

趣旨

親子で葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、命の大切さ、自然の美しさを感じ、ふるさと大津を愛する気持ち、親子の絆を育む。

実施日

令和 5年7月29日(土)・30日(日)

募集対象

大津市内在住の小・中学生を含む家族

応募状況および参加者数

応募者数 232家族 694名 参加者数 24家族 86名

プログラム

	8	9	10	11	12	13	14	15
7月29日・30日		受付	串けずり	あまごつかみ 火起こし		丸太切り 川遊び		解散



参加者の声

- ・普段経験することのできないことをたくさんできて良かったです。スタッフの方も色々声をかけてくれたり、アドバイスをくれたり、安心して過ごすことができました。安全面にもとても気を配られていると感じました。暑い中水分も取らず、安全を見守って下さったスタッフの方々ありがとうございました。とても楽しかった。
- ・川遊びなどは初めてでしたが、串けずりや火起こしの時も少し困っているとスタッフさんが声をかけてくださり、とても楽しかったです。子ども達も「あまごおいしかった！めっちゃ楽しかった」と言っていて、大満足です。ありがとうございました

成果と課題

毎年多くの家族が応募してくれている。今年度は2回開催した。2日間とも応募が多数あり、抽選となったことから、市民の関心の高さが感じられた。

午前中の活動は、家族でかまど作りや串削り等を行いできるだけ子どもにさせようとしていた。保護者はしおりを見ながら、「次はこれをしようか」と子どもに提案したり、小刀の使い方を教えたりしていて、家族の交流が深まる様子が伺えた。午後の川遊びは水量がやや少なく感じたが、川の冷たさや流れの心地よさを楽しんでもらえたと思う。時間の関係で少ないと感じた子どもがいたようだが、参加者の方は満足しておられたように感じる。川に入る場合は必ずライフジャケット、ヘルメットを着用することを徹底して、所員やカウンセラーで確認を行えた。危険予測をして、安全に活動する手本として示すことができたと思う。

ファミリー防災キャンプ

趣旨

夏の葛川で、自然のよさに触れながら防災テクニックを学ぶとともに、家族の絆を深め、防災の意識を高めあう機会とする。

実施日

令和5年9月16日(土)～17日(日) 1泊2日

募集対象

大津市内在住の小・中学生を含む家族

応募状況および参加者数

応募者数 19家族65名 参加者数 9家族33名

プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
9月16日				開講式	テント設置 段ボールで生活 用品作り 避難訓練	昼食	火災を防ぐために (協力) 大津北消防署		自由時間		夕食準備 アルファ化米	夕食	キャンプファイヤ		入浴		消灯
9月17日		起床	湯煎炊飯	朝食	洪水が起こったら 土のう積み体験	あまご料 つかみ	空缶飯 炊飯	昼食	ふりかえり	閉講式							

参加者の声

- ・防災について子どもは学校で学ぶことが多いですが、親は学ぶ機会が少なく湯煎炊飯や空缶炊飯、土のう積み体験など、実際に体験できたことがよかったです。
- ・防災について、普段考えてはいるけれど、家で対策など全くできていません。大人だけなら何とかなることも小さい子ども2人を守らないといけないとなると、何の対策もなし知識もなしでは困るなど改めて感じました。今回の貴重な体験をさせていただいたことを機会に家族で防災について考えていきたいと思います。

成果と課題

宿泊でのキャンプであったことからゆったりとした時間の中で様々な体験を行うことができた。大津北消防署の協力のもと、消火訓練やロープワーク、毛布で担架体験、防災クイズと大人から子どもまで楽しみながら体験することができた。また、限られた食料で2日間過ごすことを課題として非常食体験や湯煎調理など体験することができたこと、キャンプカウンセラーの協力のもとキャンプファイヤを行い、参加者の絆も深めることができた。

ただ、9月といえ、非常に気温が高く、予定していたテント泊体験を中止し宿泊室で宿泊してもらうこととした。参加者からは、体調面を考慮し臨機応変に対応していただきありがたかったという声をもらったが、非常時での宿泊体験も行えるよう対策を考える必要があると感じた。

ファミリーウインターキャンプ

主旨

冬の葛川で自然の厳しさや偉大さを感じながら、体を動かす活動を通して、家族のふれあいを深める。

実施予定日

令和6年1月27日（土）～28日（日） 1泊2日 雪不足により中止

募集対象

大津市内在住の小・中学生を含む家族

応募状況および参加者数

応募者数：63家族 246名 参加予定者数：14家族52名

プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1月27日				開講式	スノーシュー体験	昼食		アルペンスキー そり遊び・雪遊び		自由時間	シーツ配布	夕食	お箸づくり	入浴 自由時間		入浴
1月28日	起床	清掃	朝食	スノーシュー アルペンスキー そり遊び・雪遊び	昼食	ふりかえり	閉講式									

成果と課題

昨年度大雪のため中止となった当キャンプであった。今年度は宿泊での事業として企画したが、冬のキャンプではあるものの非常にたくさんの応募があった。今回の趣旨は大津市内であっても、積雪の多い葛川で雪遊びやスキー、スノーシューといった雪の活動ができることを体験しながら、家族の絆を深めていただくことであった。

今冬は近年まれにみる暖冬で、1月に入っても積雪がない状態が続いた。しかし、当日の積雪を期待しスキー等の雪を使つての活動やクラフトの準備を万全にし、当日を迎える予定であった。

しかし、実施週前半に積雪はあったものの、安全に活動できる積雪量ではなかったため、3日前に中止の判断をし、参加予定者へメールで連絡した。当日の天候は雨で、少ない積雪もさらに減り、参加者の安全を考慮し中止を行ったことは適切な判断であったと考えている。

企画の内容は雪の活動を主体としているが、参加者は雪が無くても家族で過ごす冬のキャンプを楽しめるよう、積雪の有無に関わらず実施できる内容を考えることが施設側として必要なことであると考えている。

わくわくホリデー（草木染め）

趣旨

- ・親子で葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、自然を慈しみ、大切に作る心を育てるとともに、ふるさと大津を愛する気持ち、家族の絆を育む。
- ・自然の素晴らしさや色の変化の不思議を体感すると共に、互いを思いやるやさしい心を養う。

実施日

令和5年10月7日（土）

募集対象

大津市内在住の方

応募状況および参加者数

参加者数 9家族 32名

プログラム

	8	9	10	11	12	13	14	15
10月7日		受付	草木染①	昼食	草木染②			解散



参加者の声

- ・2回目の参加でした。今回もありがとうございました。コロナ前だったような気がしますが、前回自分達で採取した草花で染めさせてもらっていたのですが、今回の2回目の方がタイムロス無くスムーズに進行してこれはこれで良かったです。午後の青色に染められたのが、本当に嬉しかったです。くさぎを探すのが大変そうですが、今後自分でもクサギの青で染めたバックなどを仕立ててみたいと思います。午前中の黒は意外でした。キレイな色だと嬉しかったかな。今日も本当にありがとうございました！
- ・草木の種類によって色が違うことに驚きでした。どんな植物でも素敵なお色になることが分かり、家でもチャレンジしてみたいと思います。輪ゴムを外すまで、模様が分からないドキドキ感は最高ですね！

成果と課題

地域ボランティアの方を講師として招いていたが、急遽都合が悪くなり、草木染が得意な所員が説明や模様付けのやり方を行うことになったが特に混乱はなかった。

今回は鉄媒染に挑戦し、シックな色を楽しんでもらうこととくさぎを事前に用意し、爽やかな色を楽しんでもらうことを企画した。染液や媒染の違いによって色の変化を見ることができ、草木染の不思議さを実感することができたのは成果であった。珍しい色もいいとは思いますが、もっと身近な材料を染液として扱うのも楽しさの一つと感じた。

わくわくホリデー（クラフト）

主旨

大自然の中、材木にふれ、工具を扱い、ものをつくることの楽しさを味わう。また、葛川少年自然の家の施設と活動内容を広く市民に紹介し、今後の活用拡大を図る目的で実施する。

実施予定日

令和5年11月25日（土）

募集対象

大津市内在住の方

応募状況および参加者数

参加者数 19名

プログラム

	8	9	10	11	12	13	14	15
11月25日			受付	木工制作	昼食	木工制作		解散



参加者の声

- ・少し難しいところもありましたが、日頃木工に触れる機会も少ないので、家族で楽しい時間になりました。
- ・家で椅子をつくることはできないので、教えていただきながらお話しながらの体験を嬉しく思います。途中、間違いながらも皆さんに優しく教えてもらいでき上がりました。ありがとうございました。娘は、恥ずかしく話しませんが生をかけてくださり良い体験ができました。
- ・木工制作またしたいです。道具の使い方なども教えていただけよかったです。とても楽しかったです。
- ・地域との連携がとれたとてもいい企画と思いました。

成果と課題

坂田工務店より2名の講師を招き、道具の使い方や木工制作の助言やシミュレーションをしていただいたので参加者の中で木工に触れる機会が普段ない方でも、随分分かりやすかったようだった。また、地元の方を講師として招き葛川をより深く知っていただくためにも今後も是非続けていきたい。

市民対象に募集をかけたところ家族での参加が多かったが、一人で参加される方もいて大変好評だった。大人も子どもも作業ができるように、寸法を測る作業やのこぎりやカンナを使う工程、釘打ちでの仕上げと様々な工程を入れ込むことで、難しい中でも、協力して楽しめるという意味でねらい通りにいったことがよかった。

わくわくホリデー（杉アロマ）

主旨

葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、自然を慈しみ、大切に作る心を育てるとともに、ふるさと大津を愛する気持ちを育む。

実施予定日

令和5年2月3日（土）

募集対象

大津市内在住の方

応募状況および参加者数

応募者数 16名 参加者数 10名

プログラム

	8	9	10	11	12	13	14	15
2月3日			受付	杉蒸留体験	昼食	ハンドクリーム作り		解散

参加者の声

- ・良い香りに包まれて実際のオイル作り（仕組み）も見せてもらえ、楽しく、ゆったりとした時間を過ごすことができました。また、葛川の自然を生かした取り組みをされていることに驚きました。
- ・葛川の自然に触れながら、杉アロマにとっても興味を持ちました。葛川の地域の活動が多くの人に広まることを応援します。

成果と課題

応募が16名だったが、キャンセルが6名あり10名とやや少ない参加であった。今年度初めて実施した主催事業であるため、市民の方にとって「杉アロマ」とはどのようなものかイメージしにくかったかもしれない。

今回の主催は市民対象として参加者を募集した。市民対象としているので、幅広い年代の方に参加してもらい、自然の家の取り組みを知ってもらう機会になることをねらいとしていた。今回の参加者に一人で参加される方や年配の方の参加もあり、こちらが思っている年代の方に参加してもらえたことは大きな成果であると思える。また、新たな葛川の魅力を発信する機会にもなった。

葛川アロマオイル隊さんの協力でこの事業に取り組むことができた。今回はハンドクリーム作りを行ったが、バスボムなどアロマオイルを使っのクラフト作りは他にも作れるものがあるので、次年度もアロマオイル隊さんと連携を密にして事業を進めていくようにしていきたい。



自然の家ボランティア研修会

趣旨

令和5年度自然の家ボランティアの顔合わせをし、葛川の自然を活かしたプログラム等を通して交流を図るとともに、ボランティアに対し自然の家の事業・活動を報告し、自然の家への理解を深める。

実施日

令和5年5月20日（土）

参加者数

地域ボランティア・青少年カウンセラー 7名

参加者の声

- ・前年度や今年度の活動内容を聞くことができた。
- ・地域ボランティアの方と協力して行うことができた。

プログラム

	8	9		10		11		12
5 月 2 0 日			開 校 式 受 付	事 業 説 明 報 告		交 流 会		解 散



成果と課題

参加者が6名と少なかったが、説明会では、昨年度の取り組みや事業計画についての話を熱心に聞いていただいた。今年度は地域ボランティアの方の依頼やカウンセラーの活動を計画する中で、自然の家にとって地域ボランティアやカウンセラーは必要であることを伝え、今年度の活動の理解を得ることができた。

交流会では、プログラムの中にある「丸太切り」を体験した。カウンセラーとボランティアの方でグループをつくり、太めの丸太をのこぎりで切ってもらい体験を行った。参加者同士で教えあう様子や要領を掴めるとスムーズに刃物を扱うことができた。

地域ボランティアとカウンセラーが顔を合わせての交流の場としてはよいと感じるが、今年も参加者が少なかったため、今後の在り方を検討していく必要がある。今後は新しく作ったプログラムを紹介していき、地域ボランティアに自然の家の取り組みをさらに理解していただけるようにしていきたい。

カウンセラー研修会

趣旨

当所周辺の自然環境を生かした野外活動や宿泊体験を通して、野外活動に必要な基礎知識や技術を習得し、ボランティアリーダーとして活動する資質を育む。

実施日

令和4年6月22～23日（土・日） 10月12～13日（土・日） 令和5年1月18・～9日（土・日）

対象

青少年カウンセラー会 会員

プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1 日目					入所式 オリエンテーション	演習・実習① オリエンテーション	昼食		実習②		オリエンテーション	夕食		実習③	入浴	就寝	
2 日目	起床	朝の集い	朝食		実習④		昼食	ふりかえり	退所式								

参加者の声

- 自分が実際に体験することで、活動内容が分かり、参加者へのアドバイスが分かった。



成果と課題

カウンセラーの数が少なくなっている中、今年度は新たに高校生が数名加入し、カウンセラー経験が長い大学生が中心となって月1回自主研修会を行っている。カウンセラーの役割は「キャンプを通して子ども達へ教育を行う」ことであるため、カウンセラーの育成は大学生だけに任せるのではなく、本所で行う研修会は、教員身分である所員が中心となり教育的視点を入れるように努めた。

主催事業では、カウンセラーと子どもたちとの関わりが大切である。主催事業前の研修会ではカウンセラーとしての心構えだけでなく、危険予測や安全指導についても研修を行った。普段できない野外レク、野外炊事の練習や現地下見をすることで研修を充実させることができた。カウンセラーが少なくなり、カウンセラー達の負担を減らすためにも所員が手助けしていく必要がある。

教職員研修

趣旨

野外活動の意義と安全管理意識を持たせるとともに、本所の活動プログラム体験することで、野外教育活動についての知識と技能を身につける。

実施日

令和5年7月27日(木)

対象および参加者数

大津市立小中学校及び幼稚園新規採用教員 幼6名、小39名、中21名 計66名
指導者…所員4名、教育センター職員3名

会場

膳所小学校

プログラム

13		14		15		16		終了・解散
7月27日	あいさつ	自然体験活動の意義 野外活動における危険と 熱中症予防について	休憩	ネイチャープログラム	命の学習	プログラムを 考えよう	ふりかえり	

成果と課題

学校ではGIGAスクール構想により子ども一人ひとりにタブレットが配布され、ICT機器が欠かせない現状である。しかし、学校園の教育の中で、机上の知識だけではなく五感を使った自然体験活動を通して、子ども自身が感じ、考え、解決する力をつけることが大切である。このことをふまえ、初任者の先生方には、自然体験活動を意図的に教育課程に組み込む必要があるということをお話した。また、自然体験活動には、落石や動植物による危険等、想定しておかなければならないことがたくさんある。何気ない風景画像や火を使った活動の画像等を利用しながら、初任者に考える時間を取りながら確認した。

後半は、指導主事により当自然の家プログラムであるネイチャーゲームの一つ「サーチ・ザ・ツリー」を初任者に体験してもらった。ヒントカードをもとに、生えている木の特徴を観察し、樹木名を当てるものである。ネイチャーゲームは自然の中で行える単純なものであるが、教師自身に経験が無いことから所員任せになることがある。研修では、教員（指導者）が子どもたち（参加者）にどんなことを意識して活動してほしいか、ねらいをしっかりと持ってプログラムをアレンジすることが大切であることを体験してもらった。また、命の学習について実際に行う手順の説明とともに、学習のねらいについて考える講義を行った。子どもからのつぶやきをどのように生かすのか、そして学習を発展させていくことが大切であることを考えることができた。その後、初任者がグループとなり子どもたちにつけたい力を明確にし、野外プログラムを考える時間も持つことができた。

初任者の感想からも危機管理についてや野外活動以外にもねらいを持ち意図的に学習を進めていく大切さについてなど良い意見をたくさんもらうことができた。

所員研修 (救命救急・防火・防犯・安全・新プログラム)

趣旨

入所者へ安全及び新しいプログラムを推進するために5つの研修を実施した。①AEDを使用した心肺蘇生及び救急搬送までの流れ等の普通救命救急、地震・火災を想定しての避難訓練 ②野外活動場所安全点検 ③新しいプログラム導入における教材研究いずれも対応力を高めるため、体験的な研修とした。

実施日

- <救命救急・避難訓練> 令和5年 4月11日(火)
- <参加者の避難訓練> 令和5年 9月16日(土) (ファミリー防災キャンプの中で)
- <野外活動安全研修> 令和5年 5月～11月随時
- <新プログラム作成> 令和5年 6月～令和6年2月随時

対象

葛川少年自然の家所員 一部主催事業参加者

成果と課題

- ① 救急救命研修では大津北消防署に訓練用具を借用し、AEDを使用した心肺蘇生を中心に研修した。特にAEDの使用法を全員が研修できた意義は大きかった。避難訓練では、地震や火災発生など緊急時の避難誘導についての役割を確認できた。また、所員のみではなく、参加者の誘導も含めた訓練をファミリー防災キャンプ(主催事業)で行うことができた。所員による現場の安全確認、避難誘導など適切に行い、参加者も混乱することなく野外へ避難誘導することができた。
- ② 野外活動安全研修では、利用団体が安全にプログラムを実施できるよう、実際にプログラムを試すだけでなく、利用団体の実際の活動から安全について所員で研修を行った。特に、火を扱う活動については事故防止のため、実際に活動のシュミレーションをし、所員の配置や動きについて研修を行った。団体への指導の際に、注意すべき点や危険を察知できる力は所員として養っておきたいという目的で行った。
- ③ 主催研修事業に向け、それぞれのプログラムの精度を上げるため、所員で研修を行った。草木染、杉アロマ抽出体験、一斗缶を使ってのお箸づくり、間伐材を用いたペーパーフォルダー作りなど、それぞれについて精度があがるよう工夫したり研究を重ねたりした。プログラムとして確立できるよう、今後も所員で研修を重ね、より良いものを作っていく予定である。



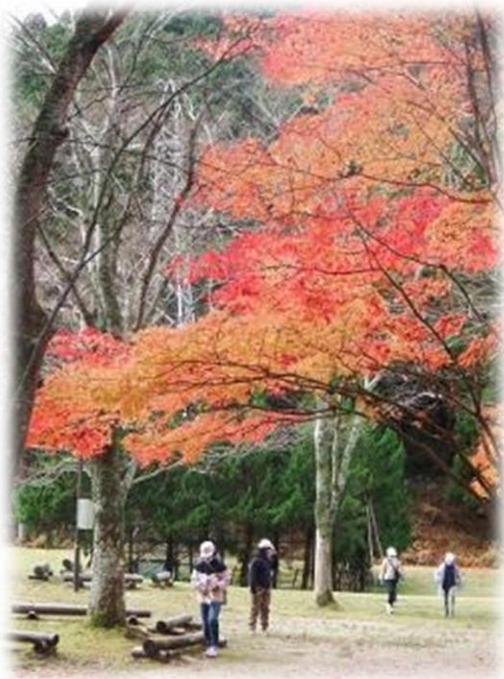
救急救命研修



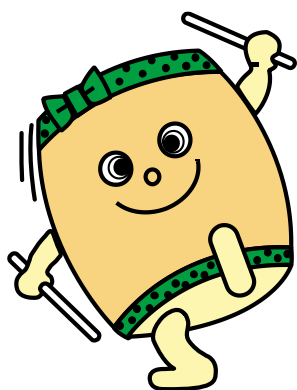
杉アロマ研修



野外活動安全研修



やまびこ
瀬の音
こどもの里



〒520-0475 滋賀県大津市葛川坊村町 243
TEL 077-599-2102 (21 世紀のおおつ)
FAX 077-599-8003
E-MAIL otsu2460@city.otsu.lg.jp